

取締役インタビュー

社外取締役である小林浩氏と、2023年6月に取締役となった船木崇雄氏に、社員を代表して、経営戦略企画本部 総務・法務グループ マネージャーの高橋有希と、コーポレートコミュニケーション室 室長の元山理映子がインタビューして話を聞きました。

IDECの取締役会の構造、運営などをどのように評価されていますか。

小林 社外取締役と女性取締役の比率が多く、バランスの良いメンバー構成だと思います。取締役会を形式的にこなしているのではなく、皆さん思ったことを積極的に、自由に発言されていて、とても良い雰囲気です。

船木 私が取締役となってまだ日が浅いですが、社内取締役の立場から見ても、社外取締役の皆さんに形式的にご参加いただくのではなく、参加の意識を強く持っていただいていると感じます。単に決議をするだけではなく、方向性を理解してもらったり、提案に対するアドバイスをいただけたりと、それぞれの専門分野からの建設的で的確なご発言が多いからこそ、すぐに検討して実行に移すことができます。

小林 課題としては、経営会議を経てから取締役会の資料に反映されているので難しい部分はありますが、会議資料はもう少し早くにいただけるとありがたいですね。

船木 社外取締役の方にも、もっと早く資料を届けて、理解していただけるよう検討したいと思います。

2023年に船木取締役が新たに就任されました。小林取締役に、次世代幹部育成プログラムにご参画いただきましたが、どのように評価されていましたか。また、船木取締役はプログラムを受けて、どのように感じられましたか。

小林 初めてお会いした時に1on1で面談して、課題に取り組んでもらいました。

船木 「中期構想を考える」という課題をいただきました。その際に、「会社全体の目標を考えた上で、自分の軸で何ができるかを戦略的に思考してみても」とご指導いただいたことを覚えています。

小林 そうでした。好奇心や吸収力が強く、熱心に取り組む方だという印象を受けました。早く役員になっていただいてリーダーシップをとってもらい、周囲からの信頼や支持を得ていくことが重要だと思ったので、取締役への選任について指名委員会で意見したことを覚えています。

船木 ありがとうございます。期待に応えられるように、これからも一層頑張ります。

小林 役員になるととにかく忙しくなりますから、現場を見る時間を意識的に確保しておくとういと思っています。いろいろな報告を受けるようになると思いますが、最後は自分の



目で見たものや感じた感覚で判断することも必要になってきます。また、現場を信頼して任せるということも大切ですから、そういった経験をどんどん積んでいただきたいです。

**IDECの事業推進について、
取締役としてどのように捉えておられますか。**

船木 2024年度も市場環境は不透明な状況です。地政学的リスクなどのさまざまなリスクを抑えながら変化に対応し、収益性を向上していくことが、今後の中期経営計画における一番のテーマになると思います。

小林 2022年度に中期経営計画を打ち出したのは良かった点ですね。その後は、IDECグループ全体でその計画を理解し、一体となって実行することが大切です。特にこの厳しい状況だからこそ、在庫状況の把握や製品に対



するお客さまからのフィードバック、ヒアリング内容の共有など、製造と販売の情報共有の強化を図り、商売の基本を突き詰めていけば、もっと改善していけると思います。

**船木社長は「グローバル企業への変革」を
大きな軸の一つとして掲げていますが、
IDECに必要なことはどのようなことだと考えられますか。**

船木 今後IDECがグローバル企業として成長していくためには、グループ全体で強いリーダーを選抜、育成していかなければなりません。今は、日本で働く人は日本で、米国で働く人は米国でキャリアを築いていますが、IDECグループとしてリーダーシップを発揮できるような仕組みが必要だと考えています。

小林 人材の育成はとても重要ですね。各地域に権限を委譲して、責任を持って自立して動いてもらうのも一つの手です。権限を委譲して任せないと人は育たないですし、本社で全てをコントロールしようとしても、情報が偏ってうまくいかない。ただし、それぞれの国で自立するためには、国ごとにきちんとした組織や人材が必要です。その上で、それらを有機的に繋げてあげる。そうすると、グループ全体で、グローバル企業としてのパワーが出せるようになると思います。

**会社に求められる社会的責任がより拡大していく中で、
IDECのサステナビリティの取り組みや
取締役会での議論についてどう感じておられますか。**

小林 IDECはかなり積極的に取り組まれていると感じています。サステナビリティの取り組みを行っていること



が当たり前の中になっていくでしょうから、今後はよりスピードを意識して取り組んでいくとよいのではないのでしょうか。

船木 サステナビリティの取り組みは、単なる選択ではなく、環境責任、社会的公正、経済的実行可能性をバランスさせる、包括的なアプローチとして捉えています。企業の長期的な成功は、コミュニティの幸福や将来の地球環境と深く繋がっているため、エネルギー効率を追求するだけでなく、廃棄物を削減したり、製品ライフサイクル全体の影響を考えるなど、あらゆる角度から持続可能性を高めることに尽力しているところです。社員一人ひとりがその役割を意識し貢献できるように、職場文化の醸成も含めて、さらにスピード感を持ってしっかりと取り組んでいきたいです。

社外取締役
大久保 秀之



—— 対談インタビューと同じ質問で社外取締役の
大久保秀之氏にもコメントをいただきました。

取締役会は、気になることはその場で質問できる、言いたいことを言える自由闊達な雰囲気です。特に、取締役会で出た意見が事業のいろいろな施策にすぐに展開され、スピーディーな経営ができているところは評価できます。会議資料については、概略でよいのでメインの課題やキーポイントを分かりやすく示していただけると嬉しいです。

船木崇雄取締役が2023年に就任されたことは、年齢的にもこれから経営を学んでいくのにちょうどよい時期だと感じています。現場を経験してどんどん学んでいくべきだと思います。

2024年度のFA業界は、引き続き厳しい事業状況が続くと聞いており、そのような中でIDECでは収益性の向上に向けた改革を行っているところですが、改革は実際に取り組みを推進する現場のことをよく分かった上で進めていく必要があります。定期的に現場に足を向ける工夫をしていただくとういのではないのでしょうか。

これからグローバルに拡大していくには、やはりメーカーとしてのコアコンピタンス、つまりIDECの強みがあるかを徹底的に分析して、強い製品をどう広めるかという議論をしていただきたいと思っています。勝てる製品を徹底的に育て上げていく必要があります。勝てる製品を増やしていくということがメーカーとして第一の基本だと感じています。